

【学会発表原稿】

本原稿は、平成24年度、岩手県立大学看護学部環境・保健看護学講座 学校保健看護学分野において、「岩手県における養護教諭の職務に関する調査」を実施し報告書を作成した際、共同研究者である豊巻松美先生が、第25回岩手公衆衛生学会学術集会（2014年2月）にて発表したものです。

A県における養護教諭の職務に関する研究（第1報） —学校保健委員会の現状と課題—

○豊巻松美（岩手町立岩瀬張小学校） 入駒一美（岩手県教育委員会） 澤口紀子（岩手県立盛岡第二高等学校） 高橋雅恵（岩手県立総合教育センター） 田村美穂子（岩手大学教育学部附属特別支援学校） 中下玲子（岩手県立紫波総合高等学校） 福土典子（矢巾町立矢巾北中学校） 遠藤巴子（元岩手県立大学） 田口美喜子（岩手県立大学） 堀籠ちづ子（岩手県立大学）

要約

本研究は、A県内養護教諭の資質能力の向上を図るための基礎的資料を得ることを目的に実施したものである。第1報は、保健組織活動の中核となる学校保健委員会について報告する。学校保健委員会は、児童生徒の心身の健康問題を研究協議し健康づくりを推進する組織である。A県において、学校保健委員会を設置していると回答した養護教諭は474人(95.8%)であった。そのうち、学校保健委員会を開催していたのは446人(94.1%)であり、年間開催回数をみると1回256人(57.4%)、2回148人(33.2%)、3回以上40人(9.0%)であった。地域の代表者の出席ありは160人(35.9%)、児童生徒の参加ありは96人(21.5%)であった。学校保健委員会の計画立案者は、保健主事(養護教諭が兼)262人(55.3%)、養護教諭129人(27.2%)、保健主事(教諭)67人(14.1%)であった。学校保健委員会に関する困難感としては、「企画・運営が難しい」「保護者・児童生徒等の参加調整が難しい」「学校医の出席を得ること及び日程調整が難しい」等があげられていた。今後は、さらに分析を加え学校保健委員会の企画・運営、関係者との連絡調整等改善に向けて検討をしていくことが必要であると考えられる。

キーワード：養護教諭 保健組織活動 学校保健委員会

I はじめに

本研究は、A県内養護教諭の職務等の現状を把握し、今日的課題を明らかにするとともに、養護教諭の資質能力の向上を図るため、現任研修のあり方や養護実践へのサポート体制の構築に向けての基礎的資料を得ることを目的とした。本報では、学校保健委員会の現状と課題について報告する。

II 研究方法

A県の養護教諭（臨時採用を含む）674人を対象に、郵送による質問紙調査（選択式と自由記述の併用）を実施した。調査期間は2012年9月～10月中旬とした。

調査項目は、①対象者の属性(校種、経験年数等) ②学校保健計画③学校安全計画④保健管理⑤保健教育⑥健康相談⑦保健室経営⑧保健組織活動⑨研修及び研究について、その取り組み状況と困難感等について実施した。

本報における保健組織活動の中の学校保健委員会では、設置及び開催状況、計画立案者、地域の

代表者・児童生徒の参加状況、参加している児童生徒の指導者、学校保健委員会についての困難感について調査した。分析は、選択式質問調査項目について単純集計を行い、自由記述は意味内容が類似のものを研究者間で整理・分類した。

III 結果

1 回収状況

回収数(率)は499名(74.0%)、有効回答数(率)は495名(99.2%)であった。

2 回答者の属性

校種の内訳は、小学校282人(57.0%)、中学校141人(28.5%)、高等学校59人(11.9%)、特別支援学校13人(2.6%)であった。

3 A県における学校保健委員会の現状

1) 学校保健委員会の開催状況

「学校保健委員会を設置している」と回答した養護教諭は474人(95.8%)、「設置していない」は19人(3.8%)であった。学校保健委員会を設置している中で「学校保健委員会を開催している」と

回答したのは446人(94.1%)、「開催していない」は28人(5.9%)であった。

学校保健委員会の年間開催回数は、1回256人(57.4%)、2回148人(33.2%)、3回以上40人(9.0%)、無回答2人(0.4%)の順であった(図1)。

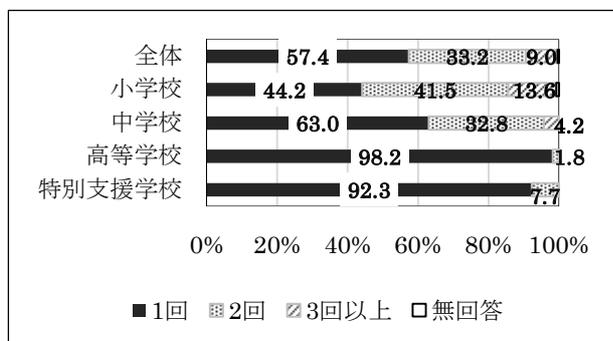


図1 学校保健委員会年間開催回数

学校保健委員会へ地域の代表者(民生委員・警察・保健師等)の出席ありは160人(35.9%)、児童生徒の代表者の参加ありは96人(21.5%)であった。

学校保健委員会に関する計画立案者は、保健主事(養護教諭が兼)262人(55.3%)、養護教諭129人(27.2%)、保健主事(教諭)67人(14.1%)、その他2人(0.4%)であった。

2) 学校保健委員会についての困難感

学校保健委員会について困難に感じていると回答した養護教諭は264人(53.3%)であった。その中で学校保健委員会を設置している養護教諭236人から、困難理由310件が抽出された(表1)。困難理由の内容は、「学校保健委員会の企画・運営が難しい」140件、「保護者・児童生徒等の参加調整が難しい」79件、「学校医の出席を得ること及

び日程調整が難しい」47件、「地域の状況から学校保健委員会を開催するための課題がある」18件、「校内連携を図ることが難しい」10件等であった。また、学校保健委員会を設置していない養護教諭7人の自由記述から困難理由7件が抽出された。困難理由の内容は、「地域の状況から学校保健委員会を開催するための課題がある」3件、「組織の立ち上げが難しい」2件、「学校保健委員会構成員の参加調整が難しい」2件であった。

IV 考察

学校における保健組織活動の中核となる学校保健委員会を設置しているのが95.8%、その中で、学校保健委員会を開催しているのは94.1%、開催回数は年1回57.4%等の実態が明らかになった。

養護教諭が学校保健委員会について困難に感じている理由に、企画・運営等の難しさがあった。これは、養護教諭及び保健主事を兼ねる養護教諭の82.5%が、学校保健委員会に関する計画の立案を担当しており、養護教諭が一人で悩んでいる実態があるのではないかと考えられる。また、学校保健委員会を構成する保護者や児童生徒、学校医の参加を得ることが難しく、参加調整に苦慮をしていた。このことから、課題に応じた弾力的なメンバー構成を考えるとともに、具体的な課題を設定し、運営方法の工夫、事後活動等の改善などを検討していく必要があると考える。

今後は、本調査の結果を踏まえ、校種や経験年数、取り組み状況と困難感の関連等の分析を行い、学校保健委員会の企画・運営、関係者との連絡調整等取り組みの改善にむけて検討をしていきたい。

表1 学校保健委員会を設置している養護教諭の困難感

項目	記述内容
学校保健委員会の企画・運営が難しい(140)	テーマ・内容・企画が難しい(52) 内容がマンネリ化している(32) 運営が難しい(31) 開催の準備にかかる負担が大きい(25)
保護者・児童生徒の参加調整が難しい(79)	保護者・児童生徒等の参加が難しい(45) 日程調整が難しい(34)
学校医の出席を得ること及び日程調整が難しい(47)	学校医の出席が難しい(26) 日程調整が難しい(21)
地域の状況から、学校保健委員会を開催するための課題がある(18)	小規模校による開催の難しさがある(10) 地区合同または小中合同による開催の難しさがある(6) 震災後、学校保健委員会の開催が難しい(2)
校内連携を図ることが難しい(10)	教職員の理解・協力を得るのが難しい(10)
保護者の理解や関心・連携を得ることが難しい(9)	保護者の理解や関心・連携を得ることが難しい(9)
学校保健委員会の事後活動・評価が難しい(7)	事後活動・評価が難しい(7)